

DEBUT 首長

埼玉県幸手市長 渡辺 邦夫氏



わたなべ・くにお 1957年生まれ。81年日本大学文理学部中退。82年肉の万世入社、87年レストラン「プロログ」開業。99年から幸手市議を3期務め、2011年10月に初当選。座右の銘は「現場主義」。民間の感覚での市政運営を目指す。趣味は映画やミュージカルの鑑賞。

職員40人削減で3億円支出減 圏央道開通を軸にまちづくり

埼玉県幸手市 県東北部に位置し、かつては日光街道の宿場街として栄えた。市を貫通する首都圏中央連絡自動車道の建設が進む。人口約5万3千人。

——初めての市長選立候補で現職を破り当選した。

幸手市は人口が減少傾向にあり、財政状態が非常に厳しいことなどから、8年前に久喜市などの合併計画が破綻した。それ以来県内で取り残された地域となり、まちづくりや行政の方向性が定まらなかった。まちに活力を取り戻し、若い世代を呼び戻せる暮らしやすい都市にすべく、事業仕分けによるムダの排除や公共投資の効率化を目指していく。

——行政のスリム化と財政再建はどう実行するのか。

まず職員数を削減する。今後5年で100人の自然退職が見込まれるなか、採用人数を60人に絞る。市長は公用車を廃止し、報酬を4年間で1000万円削減する。3億円の支出削減が可能と見ている。

市民にも負担を強いることに

なる部分もある。これまで基金を取り崩して補っていた介護保険料は値上げをすることを検討している。一方、国保税は引き下げることバランスをとる考えだ。高齢者福祉は住民の力を借り、防犯パトロールや安否確認などコミュニティづくりを進めることで、お金をかけずに住みよい環境を整備していきたい。

——まちづくりの方向は。

選挙で大きな論点となったのが、現在平面駅舎となっている東武日光線幸手駅周辺の開発だ。市街化が進んでいる東口に対し、西口は開発されておらず、これまで市は西口の区画整理事業を進めてきた。私は市長選で、20~30年かかる区画整理よりも、駅を橋上化することで自由通路を設けることを優先する政策を掲げた。費用は20億円程度に上るが、駅を中心とした市街の活性化の効果が最も早く期待できる。東武鉄道側と交渉を進め、実現させたい。

——首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通が近づいている。

圏央道の幸手インターチェンジ周辺では埼玉県企業局が47haに及ぶ広大な産業団地を造成中だ。圏央道は東名高速道路から常磐自動車道まで首都圏を一周するバイパスであるうえ、都心にも近い物流の要所となる。現在、県と共同で企業誘致を進めており、雇用の確保につながるかと期待している。

長期的にはインターチェンジと産業団地をまちづくりの核となるよう生かしていきたい。駅からインターチェンジにつながる道路を整備し、現在市内に少ないショッピングモールなどを誘致することで、暮らしやすい街にできればと考えている。

——人を呼び込める街を目指す？

人口が増えることは街にとって良いことだ。若い世代には都内にも通える住み心地を重視し、高齢者には安心・安全のまちづくりを進めていく。

(聞き手は

さいたま支局 朝田 賢治)